



▼平成23年度オープニングレガッタ

平成23年6月5日(日)曇り空の中オープニングレガッタが開催されました。

オープニングレガッタ史上初の9艇の参加により第1レースが風のない中で午前10時にスタート。

いつものソーセージコースを2週の予定であるが、トップ艇が第1レグ上マークを回るのに30分、風が上がるのを期待するも一向に気配がない、スタートより2時間以内にフィニッシュ艇が無ければレースが無効に・・・競技委員長の一声で1周にコース短縮をする。その時すでにコミューティの約半数が船酔いに襲われていた。

結果9艇中7艇がフィニッシュ、まずまずである。

続く第2レースも12時10分スタート予定で準備を進めるも前述の状態で結局1分遅れの12時11分スタートとなった。

第1レース終了間際から上がってきた風により第2レースがスタート50分前から全9艇がフィニッシュ。すでに午後1時である、これからマークを上げてポンツーンに戻り、餌にありつけるのは午後2時頃か？

今回は、増田先生の進水式を兼ねて表彰式を行ったため、緑の島での会食となった。火気を使用できないので焼肉は×でした。

集まった人数も50人はいたでしょうか用意した弁当は47人分(参加者+コミューティ+α)5~6人に弁当が行き渡りませんでした。m(_ _)m

オードブルについてもスーパーから買い集めた総菜を大皿に盛り付けておいしく頂きました。(^_^)/

レース結果については、裏面に掲載しておりますが今年初めてのレースにおいてココリスが優勝を決め波乱含みの一年の幕が開けました。

パーティーも中盤を過ぎた頃から風がさらに強くなって来たため、クラブハウスに移動してさらに宴は続きました。

アンカーライト

第13話「機関トラブルの話」

機関トラブルが一番いやだ。というか以前から船体系のトラブルは少なく、記憶に残っているのは機関トラブルが多い。YA-8は排気のみキシングエルボがイカレて何回か苦労したし、燃料系のトラブルもあった。まあ、消耗品の故障ではあるが。拙艇は幸いにしてエンジン屋を呼んで修理するまでのトラブルは記憶がないが、遼艇からはいろいろとトラブルの話は聞こえてきて我々素人の手に負えない状況もたまにはあるようだ。最近ではプロペラを落としたなんてえのもあってこうなるともうどうしようもない。

今の艇はアメリカの金髪娘いわゆるパツキンなので機関も「ユニバーサル18馬力」がドカンと鎮座している。すこぶる快調で南部の娘よろしくパワフルでも

ありすこし大きめのケツに敷かれて心地よい。ただ難点は部品の調達に手間がかかる。というか何処にでも売っているわけではないのでゴキゲンを損なうとえらいことになる。部品は直輸入すれば手には入るがすこしばかりメンドウだ。ネジはインチだし、防食亜鉛なんかも国内の販売先を探すまで苦労した。一度亜鉛が減りすぎて電蝕で間接冷却装置の真鍮ネジがもげてしまい、ネジ1個探すのに函館中を駆け巡ったこともあった。オイルフィルターなども合うのを探してワーゲンの車屋まで行って見つけた。いまは学習し予備を備えてはいるが、キンパツと付き合ってみて「千昌夫」の気持ちがわかるというものである。(ちょっと違うか)

おやじはこの金髪娘のケツに惚れて即プロポーズしたらOKで函館へ嫁いできた。斜め後ろから見る腰のライン(おやじはくびれに弱い)がなんともいえず目ぼれした。ヤマトナデシコはパツキンに負けたのだ。話はそれだが、エンジンがトラブルに入出港が出来ないので一番困るのである。バッテリーの充電もできないから艇内生活も困る。GPSもムセンキもステレオも照明もすべてバッテリーからの電気で生きているのだから。風がないときは海峡の逆潮を乗り越えるにも大いに頼りにしている。我々機帆走協会週末ホームレス人間としては機関故障がホントに困るのだ。であるからしてパツキンいや機関様様には今後とも手間隙金をかけて大事に大事にするのである。よく船は女性に例えられるがお妻さんを囲うとはこういったことなのかな。なに?カミさんの面倒もちゃんと見ろって?ドモすいません。

須田新輔前会長を偲んで

平成23年6月10日午後16時27分

転移性肝腫瘍で66歳と言う若さで当協会前会長須田新輔さんがこの世を去った。数年前に直腸癌が見つかりこの間、何とか軽快治癒する努力をしてきたが、ご家族の賢明な看病も虚しく薬石効なく残念な結果となった。2007年5月20日の総会で副会長から会長へ就任しこの間、海洋土木という我々の趣味と関係が深い点もあり様々な面でご支援ご協力を頂いた。

また、その人柄から公私共に多くの人脈の中で、多方面で様々な要職に就き活躍されていたようで、葬儀の会場には100を超える献花や300を超える弔電が届いた。祭壇の写真はいつもの笑顔で会場に御列席された方々に今にも一杯やるべ!と言わんばかりなお顔であった。医学の進歩も21世紀に入り格段に向上したとは言え癌と言う未だ現代の医学では根治できないこの病は運命と言う言葉で軽々に片付けてはならないが、我々にとっては本当に冷酷非情である。だれでもこの世に生を受けたものは、最初で最後にこの道を通らなければならないのもその事実であることを忘れてはならない。須田さん本当にありがとうございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

南北海道外洋帆走協会 理事長 石川 彰